



彼杵小学校だより NO. 24
「強く 正しく 朗らかに」



平成29年12月11日
 東彼杵町立彼杵小学校
 TEL 0957-46-0038
 (文責 校長 原 源吾)

〈ホームページ〉 <http://www.kyoui.higashisonogi.jp/sonogi-syo/>

「自分らしさ」を大切にできる世界に

～人権集会「白い魚とサメの子」～

7日の人権集会で、佐世保人権擁護委員協議会の皆様が、ペープサート劇「白い魚とサメの子」を上演してくださいました。お話のあらすじはこうです。

いじめられっ子の白い魚は、いつも一人ぼっち。ある日白い魚は、お母さんに、「ぼくなんか、サメに見つかればいいんだよ。食べられちゃえばもういじめられないし、一人ぼっちで寂しくなることもないから。」と言います。お母さんは我が子の言葉にショックを受け、涙を流して命を大切にしよう訴えます。白い魚は、母親の必死の訴えに一度は元気を取り戻し、速く泳ぐ練習をしたり、カラフルな貝殻を



※法務省 HP「人権ライブラリー」より

体に貼って見た目をよくしようとしたりと努力をしますが、うまくいきません。相変わらずの独りぼっちに悲しみがこみ上げ、泣きつかれて眠ってしまいます。すると、夢の中で大きなリュウが現われ、こう言いました。「仲間になるということは、仲間と同じになることじゃないんだ。ありのままの君を好きになってくれるのが本当の仲間というものだ。自分らしさを大切にしろ。君にもいいところはたくさんある。でもかくれてばかりいたら、君のいいところはほかの魚に見てもらえないぞ。」

そんなある日、突然嵐がやってきます。白い魚は、危険をかえりみず真っ暗な海の中で、逃げ惑う魚たちを助けてあげます。助けられた魚たちは、これまでいじめていたことを深く反省し、白い魚と仲良く暮らしていきます。白い魚にとって自分らしさとは、「優しさ」と「思いやれる心」だと分かるのです。

人間にとって、誰にも相手にされず一人ぼっちでいることほど悲しくて辛いものはありません。各地で続発するいじめを原因とした子どもの自殺が報道されるたびに、胸が締め付けられる思いがします。いじめを受けた子ども自身の悲しさ、無念さはさることながら、残された家族の思いは、筆舌に尽くしがたいものがあると思います。彼杵小では、LINE 等の SNS 問題、重大な事案は発生してはいませんが、休み時間や放課後等の子どもたちを見ていると、悪口の言い合いや、人をばかにしたような言動が見られることがあり、その都度指導をしています。未来の宝である子どもの命が失われることがないよう、今後もしっかりと子どもたちを見守っていきたいと思います。

ところで、最近世の中の雰囲気、とてもきゅうくつだと感じることはないでしょうか。ちょっとした言い間違いに過敏に反応し、これでもかと言わんばかりのネット攻撃、ブログの炎上等が頻繁に起こる世の中になりました。もちろん、人を中傷したり差別したりする言動は、批判されても仕方ないと思いますが、ちょっと行き過ぎではないかと思うことが多くなったような気がします。

自分らしさをのびのびと発揮できる世の中であってほしいと願うばかりです。



今回の劇を通して、人と人とが仲良く幸せに暮らすためには、「自分らしさを大切にすること」がポイントの1つであること、そして「自分らしさ」には、スポーツができる、勉強ができる、ファッションが良いとか、見た目で分かりやすいものだけでなく、「優しさ」や「思いやりの心」といった内面の良さも大切であることを再認識しました。

お忙しい中、早朝から来校くださり、素敵な劇を披露していただいた人権擁護委員協議会の皆様、本当にありがとうございました。

※裏面はありません。